

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 105	高等学校	地理歴史科	地理 A	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地A - 312	高校生の地理A		

## 1 編修の基本方針

### ▶ “新しい社会を生み出す創造力”の育成をめざして

現代社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、さまざまな変化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も多様化している。このような社会において、平和な生活を持続していくためには、現代世界の特性を深く知り、その諸課題を解決する新しいしくみやモデルを構築する能力が不可欠である。そこで私たちは、これからの社会を担っていく高校生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考え、特に以下の方針を重視して本書を編修した。

## 本書の編修方針

### ① 現代世界が抱える諸課題の解決に向けて、主体的に取り組む態度を育成できる教科書

- ・現代世界が抱える諸課題について考察するにあたって、世界各地の生活・文化にどのような特色があり、それがどのように形成されてきたのかが理解できるよう内容構成を工夫した。
- ・日本は豊かな自然に恵まれた国である一方で、さまざまな自然災害が多発する国でもあるという点を捉え、防災意識を高めるとともに、地域性をふまえた取り組みが大切であることを理解できるようにした。

### ② 思考力・判断力・表現力を育成できる教科書

- ・写真や図表の読み解きの視点を示した「読み取り」を各所に設け、写真や図表から地理的・地域的特色を考察する力が育成できるよう工夫した。
- ・学習内容に合わせて、「SKILL」のコーナーを全12か所設け、地理的技能を身につけられるよう配慮した。

## 教育基本法 第2条 への対応

**第1号** 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健康な身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け」について、本書では、現代世界の特色や地球的課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を深めることと捉えた。

- ① 具体例を切り口にした本文記述によって、世界各地の特色や課題への理解を深められるようにした。
  - ② 写真や模式図などの視覚資料を豊富に掲載し、臨場感をもって学習を深められるようにした。
  - ③ 「トピック」と「発見！日本と世界のかかわり」のコラムを設け、より幅広い知識を身につけられるよう工夫した。
- p.15「海外旅行に必要なものは…」(トピック), p.127「トンガでそろばん!？」(発見！日本と世界のかかわり)

「真理を求める態度を養い」について、本書では、自ら発見した疑問や課題を多面的・多角的な視野から考察する態度を養うことと捉えた。

- ①「第2部3章 身近な地域の課題と地域調査」では、調査テーマの設定方法や現地調査の手順、発表方法について具体的なレポートとともに提示し、生徒自身が課題を発見し、真理を求める態度を養えるようにした。

「豊かな情操と道徳心を培う」について、本書では、世界各地の生活・文化とその背景を理解したうえで、多様な文化や、固有の価値を尊重する態度を養うことと捉えた。

- ①各地の暮らしがみえる本文や写真を数多く取り扱い、地理的事象と暮らしのかかわりを捉えられるようにした。
- ②日本や世界各地の具体的な生活・文化などのようすを旅行者の視点で紹介する導入コーナー「Report」を設け、各地で暮らす人々の生活・文化の特色を捉えられるように配慮した。
  - ▶ p.26「実りの秋！ぶどう園」、p.68「東南アジアの寺院めぐり」 など
- ③日本とは異なる世界の諸地域のさまざまな生活・文化や風習を紹介するコラム「旅先でのエピソード」を各所に設け、異文化理解が深められるよう配慮した。
  - ▶ p.83「金曜日が休日？」、p.101「ユーロが使えないイギリス」 など

**第2号** 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

「創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」について、本書では、生徒が主体的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもつ態度を養うことと捉えた。

- ①地理的技能を身につける「SKILL」コーナーでは、グラフや地形図の読み解きの設問「トライ」を各所に設け、主体的に学習に取り組めるようにした。
- ②ほかのページと関連する本文中の文章については、行間にその参照先を示し、学習をより深められるようにした。

「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」について、本書では、世界の人々の生活や産業に触れ、各地で行われているさまざまな工夫への認識を深めることと捉えた。

- ①「第1部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題」を中心に、世界各地の人々の営みや暮らしがわかる写真を各所に配置した。また、各所に設けた「Report」コーナーや「トピック」などのコラムで、世界の人々の生活や産業のようすを具体的に取りあげた。
  - ▶ p.89「空飛ぶケニアのバラ」(トピック)、p.114「☆こちらヒューストン☆」(Report) など

**第3号** 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」について、本書では、異なる立場の相手を尊重し、ともに協力する態度を養うことと捉えた。

- ①「第1部4章 地球規模で広がる課題」では、環境問題などの地球的課題が地域によって異なるということ、実際の事例をもとに示し、課題の解決には相手の立場を尊重することが大切であることに気づかせるようにした。

- ②「第2部2章 日本の自然環境と防災」では、災害による被害を防ぐためには、日ごろからの協力や救助体制の整備が大切であることを丁寧に説明し、災害の被害を軽減するために協力し合う態度を養えるようにした。

「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」について、本書では、持続可能な社会の形成のために主体的に参画する態度を養うことと捉えた。

- ①「第1部4章 地球規模で広がる課題」では、諸課題の解決に向けた具体的な取り組みを紹介し、持続可能な社会を形成するために、生徒が主体的に解決策を考えて実践するなどの態度を養えるよう配慮した。
- ②「第2部3章 身近な地域の課題と地域調査」では、身近な地域にはどのような課題があり、その課題に対してどのような解決方法が考えられるかについて、調査結果のまとめや発表の場で意見交換を促す内容とした。

#### 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」について、本書では、環境を保全することの重要性を理解し、環境保全に参加する態度と環境問題を解決する能力を養うことと捉えた。

- ①「第1部2章 世界の自然環境と文化」での地形、気候の学習や、「第1部3章 世界の諸地域の生活・文化」での自然環境の記述を重視し、自然条件が人々の生活と深くかかわっていることを理解できるよう配慮した。
- ②「第1部4章⑤ 世界の環境問題」では、さまざまな環境問題について、原因や発生地域を示すだけでなく、解決への取り組みまで丁寧に取り扱い、環境問題を解決するために必要なことを考察できるよう工夫した。

#### 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」について、本書では、日本の伝統文化を尊重するとともに、日本人が長い歴史のなかで培ってきた勤勉さや協調性など、世界に誇るべき資質に気づき、我が国や郷土を愛する態度を養うことと捉えた。

- ①各所に設けたコラム「旅先でのエピソード」では、世界各地の生活習慣や文化を日本と比較しながら学習することで、日本の伝統と文化に対する愛着を感じさせ、我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。
- ②「第1部1章⑦ 日本の領域と領土問題」では、日本の領土について、領域がわかる図や写真を用いて丁寧に解説し、領土をめぐる問題の平和的な解決方法を考えるための基礎となる知識を習得できるようにした。
- ③「第2部2章 日本の自然環境と防災」に設けたコラム「今も生きる先人の知恵」では、防災のための知恵が昔からの日本人の生活のなかにみられることを紹介し、我が国の伝統や文化を尊重する態度を養えるよう工夫した。

「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」について、多様な課題を抱える他国の立場への理解を深め、国際協力に積極的に寄与する態度を養うことと捉えた。

- ①「第1部3章 世界の諸地域の生活・文化」を中心に設けたコラム「発見！日本と世界のかかわり」では、各地域と日本との経済的・文化的交流を紹介し、世界各地の発展のために日本が貢献していることや日本が世界各地と深くかかわっていることなどへの理解がより深まるよう配慮した。
- ②「第1部4章 地球的規模で広がる課題」では、現代世界が抱える諸課題を解決するために、日本と各国・地域がたがいに協力することの重要性を理解できるよう工夫した。

## 2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1部1章 旅からとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国と国との結びつきや地域的な枠組みについて、具体事例をもとに学習できるようにした。また、グローバル化が進む世界のようなさまざまな写真や地図、グラフなどで示すことで、生徒の理解が深まるよう配慮した。<b>第1号</b></li> <li>●「SKILL」コーナーを設け、読図や地図化など、地理学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能が身につけられるようにした。<b>第1号 第2号</b></li> </ul>	p.4～21 p.22, 23
第1部2章 世界の自然環境と文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の自然環境の基礎となる地形や気候について考察できるよう、大きな写真や模式図、図表を豊富に用いて構成した。また、地形や気候の成り立ちに加えて、人間生活とのかかわりも丁寧に記述し、自然環境が人間に与える影響の正の側面と負の側面の両面を理解できるように配慮した。<b>第1号 第3号</b></li> <li>●世界各地の文化の特色と、それらが人々の生活とどのようにかかわっているかについて、丁寧に記述した。<b>第1号</b></li> </ul>	p.24～43 p.44～47
第1部3章 世界の諸地域の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界各地の自然環境を重視し、特色ある自然環境が多様な文化や産業の形成に深くかかわっていることを理解できるように配慮した。<b>第1号 第4号</b></li> <li>●コラム「発見！日本と世界のかかわり」を各所に設け、各地域と日本がさまざまな面でかかわっていることを紹介し、国際社会の平和と発展のために日本が貢献していることに気づかせるようにした。<b>第5号</b></li> </ul>	p.50～51, 60～61, 66～67, 74～75 など p.55, 63, 85, 91 など
第1部4章 地球規模で広がる課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産や消費などの分布図やグラフを豊富に掲載し、先進国と発展途上国の違いなどの地域的差異を捉えられるようにした。<b>第1号</b></li> <li>●環境問題や資源・エネルギー問題、食料問題など、現代世界が抱える課題について具体的な事例を取りあげ、持続可能な社会を形成するための態度を養えるよう配慮した。<b>第1号 第3号</b></li> </ul>	p.128～141 p.128～143
第2部1章 身近にあるさまざまな地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>●GISを用いた地図表現やその技術について、実社会での具体的な活用例とともに学習できるようにした。<b>第1号</b></li> </ul>	p.154～155
第2部2章 日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の自然災害について、具体的な地域事例を取りあげることによって、昔から自然災害への対策に取り組んできたこと、同じ災害に対しても地域によって対策が異なることなどを理解できるようにした。<b>第1号</b></li> <li>●災害による被害を防ぐためには、日ごろからの協力や救助体制の整備が大切であることを、本文やコラム、写真などで丁寧に説明し、災害の被害を軽減するために協力し合う態度を養えるようにした。<b>第3号</b></li> </ul>	p.160～173 p.160～173
第2部3章 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域調査の方法や手順、まとめ方を具体的に示し、身近な地域の調査に活用できるように配慮した。<b>第1号</b></li> <li>●探究や発表においては、思考力・判断力・表現力を育成するために、自分の解釈を加えて討論する言語活動を示した。<b>第2号</b></li> </ul>	p.174～181 p.181

## 3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### 1. すべての生徒に読みやすい教科書

- ①全体のデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮した。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、図表の線を従来よりも太くするなどの工夫を行った。
- ②本文や側注、キャプションなどの文字については、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用した。

### 2. 環境に優しい素材と堅牢な造本

- ①紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用した。一方で、写真がきれいに見えるよう、白くて裏うつりの少ないものを使用した。
- ②インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とした植物油インキを使用した。
- ③使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにした。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 105	高等学校	地理歴史科	地理 A	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地A - 312	高校生の地理A		

## 1 編修上特に意を用いた点や特色

### 世界の諸地域の特色や現代世界が抱える諸課題を 臨場感をもって学習できる教科書

本書では、世界の諸地域の生活・文化の特色や現代世界が抱える諸課題について、臨場感をもって考察できるようにした。また、日本と世界のかかわりを意識し、国際社会に主体的に参画する態度を養うことができるよう編修した。

本書の特色

- ① 世界各地の生活・文化の特色を臨場感をもって学習できる教科書
- ② 世界と日本のかかわりが見える教科書
- ③ 日本のさまざまな自然災害と防災への取り組みを具体事例から考察できる教科書
- ④ 地理的見方・考え方や地理的技能が身につく教科書

#### 特色 1 世界各地の生活・文化の特色を臨場感をもって学習できる教科書

##### 1 世界各地の生活・文化を、旅感覚で学べる「Report」と「旅先でのエピソード」

- ・世界各地の生活・文化のようすを写真とともに旅行者の視点で紹介するコーナー「Report」を、各見開きの導入に掲載した。臨場感あふれるこのコーナーを通して、世界各地の生活・文化に興味・関心をもてるよう工夫した。
  - ▶ p.84「未来都市ドバイ!!」、p.118「熱気あふれるカーニバル☆」 など
- ・世界各地の生活・文化の特徴を旅行者の視点で紹介するコラム「旅先でのエピソード」を各所に掲載した。具体的なエピソードを取りあげ、生徒の想像をかきたてることで、臨場感をもって学習できるよう工夫した。
  - ▶ p.53「公園の地面で書道をする人」、p.117「山の旅行は高山病に注意！」
- ・「第1部2章1節 地形」と「第1部2章2節 気候」では、人々の生活とのかかわりを丁寧に記述した。例えば、気候については、「熱帯の気候と人々の生活」、「乾燥帯の気候と人々の生活」などの項目を取りあげ、各気候帯の特徴とそこで暮らす人々の生活とのかかわりを重点的に描いた。

##### 2 AB判の判型を生かした大迫力の写真資料

- ・全編を通して写真を豊富に掲載した。また、可能な限り大きく掲載し、臨場感をもって学習できるよう配慮した。特に「第1部3章 世界の諸地域の生活・文化」では、各節の冒頭の見開きで、AB判の判型を生かしたワイドな写真を掲載した。
  - ▶ p.74 ①「ヒマラヤ山脈でトレッキングを楽しむ人々」、p.108 ①「雄大な地形が見られるグランドキャニオン」 など

### 3 世界や日本に広がる地理的事象を、臨場感をもって読み取れる「NEWS」

- ・「第1部4章 地球規模で広がる課題」, 「第2部2章 日本の自然環境と防災」では、地球的課題や日本における自然災害の事例を報道調で紹介するコーナー「NEWS」を、迫力のある写真とともに、各見開きの導入資料として掲載した。このコーナーを通して、生徒自身がニュースを見聞きしている感覚で、世界や身近な地域で生じている課題や災害について学習できるようにした。

▶ p.138「国土水没の危機、モルディブ」, p.164「未曾有の被害をもたらした大地震」 など

## 特色2 世界と日本のかかわりが見える教科書

### 1 世界のさまざまな地域と日本のかかわりが見えるコラム「発見！日本と世界のかかわり」

- ・各所に設けたコラム「発見！日本と世界のかかわり」では、世界と日本の物や文化などが、さまざまに結びついていることが理解できるよう、具体的な事例を取りあげて紹介した。生徒になじみの薄い地域であっても、日本とのかかわりを意識することで、世界の諸地域を身近に感じながら学習できるようにした。

▶ p.55「中国で人気の日本式ラーメン」, p.71「身近な製品に使われるパーム油」 など

### 2 世界の諸地域の基礎的なデータを日本と比べられる工夫

- ・「第1部3章 世界の諸地域の生活・文化」の各節の冒頭に設けた「○○のデータ」では、面積や人口、時差などを日本と比べることができるよう工夫した。また、具体的なイメージをもって学習できるように、日本からの飛行時間も掲載した。

▶ p.60「韓国のデータ」, p.92「ヨーロッパのデータ」 など

## 特色3 日本のさまざまな自然災害と防災への取り組みを具体事例から考察できる教科書

### 1 日本で生じる自然災害の地域性を理解し、防災への取り組みを促す記述

- ・身近な地域で起こりうる自然災害を知り、主体的に防災に取り組むことができる生徒を育成するため、自然災害の総論や事例を学習するのみならず、自然災害に対して自分たちがどのように判断・行動できるか、考えさせる内容とした。

▶ p.161「ハザードマップを活用しよう」 など

- ・それぞれの自然災害について総論を扱う際には、どのような地域で起こりやすいのかを捉えられるよう、模式図や分布図を多く掲載した。また、地震・津波・噴火・台風などの自然現象は、災害を引き起こすメカニズムから理解できるようにした。

▶ p.163「地震と津波のしくみを考えよう」, p.167「火山が噴火するしくみを考えよう」 など

### 2 日本人が古来より培ってきた防災の知恵から学ぶ工夫

- ・コラム「今も生きる先人の知恵」を各所に設け、防災のための知恵が、昔からの日本人の生活のなかにみられることを理解できるようにした。

▶ p.165「津波の警告を残した先人」, p.173「暮らしに根ざす水害対策」 など

## 特色 4 地理的見方・考え方や地理的技能が身につく教科書

### 1 地理的技能が身につく「SKILL」

- 各単元の内容に応じて、地理学習に必要な技能を身につけるための「SKILL」コーナーを全 12 か所設けた。特に統計地図やグラフの読図などの活動を充実させた。また、臨場感をもって学習できるよう、旅行をイメージさせる活動を盛り込んだ。
  - ▶ p.22 「統計資料をグラフにしよう」、p.35 「旅行先の気候を知ろう」、p.48 「海外旅行を計画しよう」など
- グラフや地形図の読み解きの設問「トライ」を各所に設け、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。

### 2 地理的見方・考え方が身につく「読み取り」

- 図表や写真には、地理的事象を読み取るための着眼点などを示した「読み取り」を随所に設け、地理的見方・考え方を養うことができるよう工夫した。
  - ▶ p.5 ④ 「**読み取り** 観光客の受け入れ数が多い国・地域はどこだろうか。」 など

## 2 対照表

学習指導要領の内容	図書の構成・内容	該当箇所	配当時数
<b>(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察</b>	<b>第 1 部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題</b>		<b>5 5</b>
ア 地球儀や地図からとらえる現代世界	1 章 旅からとらえる現代世界	p.4 ~ 23	10
イ 世界の生活・文化の多様性	2 章 世界の自然環境と文化	p.24 ~ 49	13
ウ 地球的課題の地理的考察	3 章 世界の諸地域の生活・文化	p.50 ~ 127	26
	4 章 地球規模で広がる課題	p.128 ~ 143	6
<b>(2) 生活圏の諸課題の地理的考察</b>	<b>第 2 部 身近な地域の課題</b>		<b>1 5</b>
ア 日常生活と結び付いた地図	1 章 身近にあるさまざまな地図	p.144 ~ 155	3
イ 自然環境と防災	2 章 日本の自然環境と防災	p.156 ~ 173	8
ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	3 章 身近な地域の課題と地域調査	p.174 ~ 181	4

計 70 時間